



おかげさまで10周年

IR REPORT 第10期 株主通信

2016年4月1日から2017年3月31日まで

ダイキョーニシカワ株式会社

証券コード：4246



ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで当社は2017年4月1日に10周年を迎えました。これもひとえに皆様のご支援、ご厚情の賜物と心から感謝いたしております。

当社は「設計・開発から生産まで手がける提案型の総合プラスチックメーカー」として、独自の技術力をもって魅力あるプラスチック製品を創造し、自動車の軽量化ニーズに貢献することで成長してまいりました。これからも当社の強みを活かして更なる樹脂の可能性を追求し、環境に貢献するという使命のもと一層の企業価値の向上を実現し、株主の皆様のご期待に沿えるよう努力してまいります。

今後とも倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

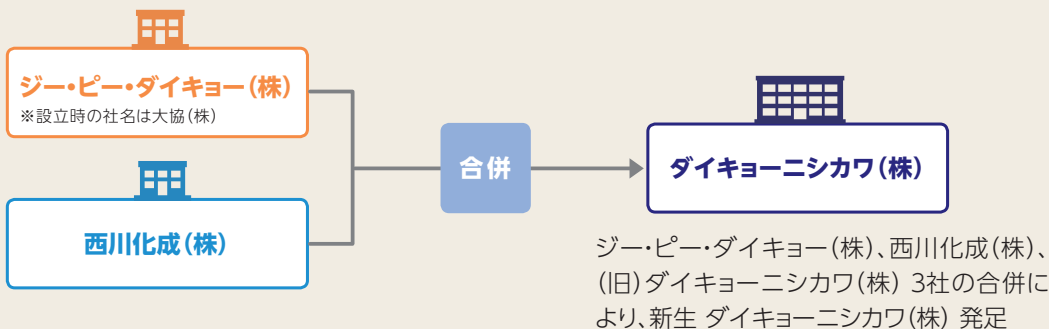
代表取締役社長 内田 成明

ダイキョーニシカワ(株)誕生まで

2007年
4月

1953年10月、広島県安芸郡府中町に自動車用幌の縫製加工の会社として設立

1961年10月、現在の広島市安佐北区可部町にウレタンフォームを製造する会社として設立



おかげさまで10周年を迎えました

GO TO THE NEXT STAGE!

DaikyoNishikawa Mexicana,
S.A. de C.V. (現 連結子会社)を
設立



DaikyoNishikawa Mexicana,
S.A. de C.V.

東広島寺家
産業団地の
用地取得

画像提供:
広島県東広島市



2013年度 連結売上高
1,000億円突破

2017年
5月

2016年
5月

自動車技術展「人とくるま
のテクノロジー展2016
横浜」に初出展

大分工場で樹脂外板部品
の組立及び出荷を開始

2015年度 連結売上高1,500億円突破

東京証券取引所 市場第一部 上場

天馬株式会社と共同で
PT.DaikyoNishikawa
Tenma Indonesia(現
連結子会社)を設立

ダイハツ車向けの樹
脂部品供給のため、
ダイハツ工業株式会
社と共同でエイエフ
ティー(株)(現 連結子
会社)を設立



エイエフティー(株)

2011年
10月

2010年
11月

2007年
7月

2007年
6月

大協西川汽車部件(常熟)
有限公司(現 連結子会社)
を設立

DaikyoNishikawa(Thailand)
Co., Ltd.(現 連結子会社)を設立



DaikyoNishikawa(Thailand)Co., Ltd.

三重県松阪市に三重
工場を新設し、オイル
ストレーナー量産開始

■ 当期の業績について

当連結会計年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の連結業績は、主要販売先への売上は前年並みとなりましたが、円高による邦貨換算の影響等により、売上高は前連結会計年度と比べ5,136百万円(3.2%)減少の155,643百万円となりました。

営業利益は、コスト低減活動により改善に努めましたが、次世代車種開発費用の増加や、お客様から期待される品質に積極的に対応するための費用の見直し、為替変動の影響等により、前連結会計年度と比べ2,859百万円(16.6%)減少の14,376百万円となりました。経常利益は、前連結会計年度と比べ2,584百万円(15.7%)減少の13,865百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度と比べ1,480百万円(12.8%)減少の10,096百万円となりました。

■ 来期の業績の見通しについて

今後、世界の景気は先進国を中心に緩やかな回復の継続が見込まれますが、米国の政策動向の懸念、新興国経済の減速等、依然として先行きは不透明な状況が続くと考えられます。

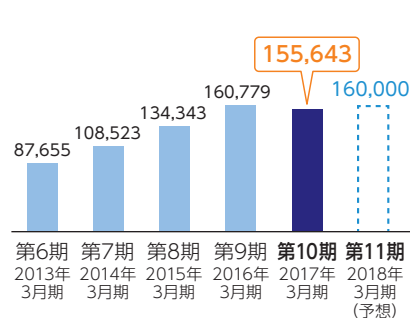
当社グループを取り巻く自動車市場におきましては、日本での販売台数は税制改正によるエコカー減税の適用基準の厳格化により前年を下回ると予測されますが、グローバルでは中国での減税策の延長により引き続き拡大が見込まれ、また、その他の新興国市場での需要の高まり等を背景に世界全体では引き続き生産・販売の拡大が期待できます。

このような状況の中、当社はおお客様の期待を上回る品質の実現に向けた取り組みと、世界4地域に展開した事業拠点の統括・連携機能の強化を進め、市場開拓、受注拡大、更なる収益力の向上に努めてまいります。

なお、来期の業績につきましては、売上高は160,000百万円(前期比2.8%増)、営業利益は15,300百万円(前期比6.4%増)、経常利益は15,300百万円(前期比10.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は11,000百万円(前期比9.0%増)を見込んでおります。

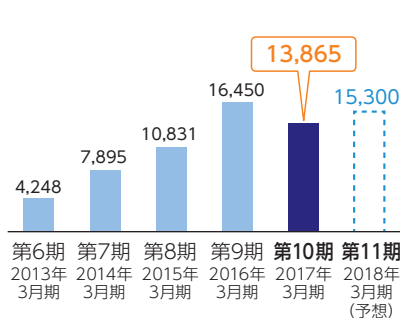
売上高

(百万円)



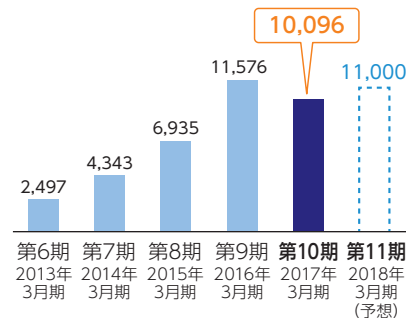
経常利益

(百万円)



親会社株主に帰属する 当期純利益

(百万円)



中期経営計画 進捗状況

当社グループは、国内ビジネスを基盤に顧客の多様化とグローバル市場での事業拡大を図るため、2015年度から2018年度までの4年間を対象とする「中期経営計画」を策定し、取り組んでおります。

目標とする経営指標

2018年度 目標	連結売上高	売上高営業利益率	自己資本当期純利益率(ROE)
	1,600億円	8%以上	10%以上
2016年度 実績	連結売上高	売上高営業利益率	自己資本当期純利益率(ROE)
	1,556億43百万円	9.2%	18.7%

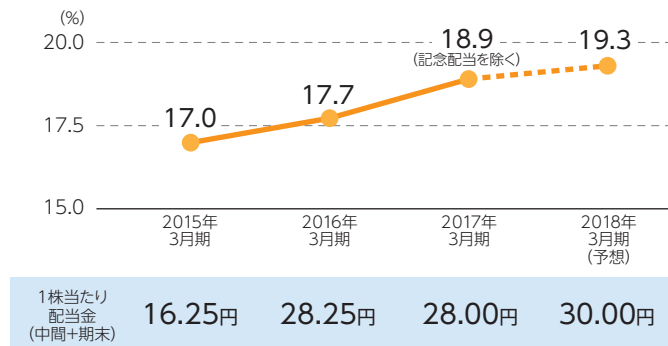
目標とする経営指標達成に向けて、「中期経営計画」を着実かつスピードアップさせるため見直しを行い、これまでの基本戦略の中で品質改善を強化するとともに、商品戦略、顧客戦略、拠点戦略の4つを柱とし、より具体的な目標に向けた取り組みを行ってまいります。

配当政策

株主様への利益還元につきましては、経営の重要課題と位置付けており、安定的・継続的な配当を行うことを基本とし、業績、配当性向などを総合的に勘案した上で、中期的には配当性向20%を目指してまいります。

※2016年1月1日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。2016年3月期の中間期は分割が行われたと仮定して、1株当たりの配当金(37.00円→9.25円)として計算しております。2015年3月期の年間配当金は同様に分割が行われたと仮定して、1株当たりの配当金(65.00円→16.25円)を計算しております。

■連結配当性向



ダイキョーニシカワは、国内の各自動車メーカー向け樹脂部品の分野で、材料ブレンド開発から、製品開発、設計、製造までを手がける総合プラスチックメーカーです。

自動車外装・外板部品



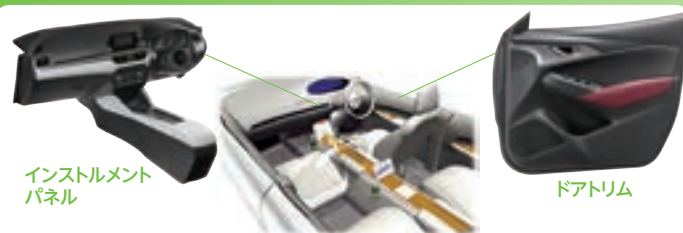
- バンパー
- フェンダー
- フード
- バックドア
- ルーフ
- ルーフラック
- スポイラー
- ラジエーターグリル
- リアガーニッシュ
- サイドステップモール
- 等

自動車エンジンルーム部品



- オイルストレーナー
- エンジンカバー
- インテークマニホールド
- シュラウドパネル
- シリンダーヘッドカバー
- パワステタンク
- 等

自動車内装部品



- インストルメントパネル
- スイッチパネル
- ドアトリム
- コンソールボックス
- インジケータパネル
- トランクサイドトリム
- センターモジュール
- アシストグリップ
- チェンジノブ
- ピラートリム
- 等

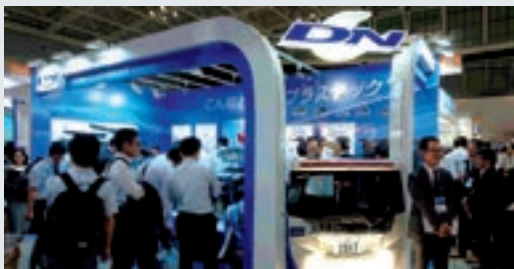
住宅関連



- バスユニット部材
- 洗面・キッチン部材
- バスタブ
- 人造大理石キッチンカウンター
- カウンター
- ガラス繊維レス人造大理石製品
- ミラーパネル
- トイレタリー部材
- 洗い場
- 便座

自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2017」に出展しました

当社は、昨年に引き続き、今年も2017年5月24日よりパシフィコ横浜（横浜市西区）で開催された自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2017」（主催：公益社団法人自動車技術会）に出展しました。



当社ブースでは、「新たな樹脂化を追求するDNC (DaikyoNishikawa Corporation)」をコンセプトに、自動車の軽量化や高効率化に貢献する

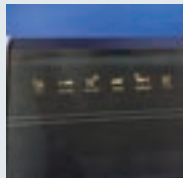
- ・軽量の樹脂バックドアモジュール
- ・商品性を向上させたコックピットモジュール
- ・ハードコート技術を採用した透明エアロボード
- ・高強度/高耐熱性を実現した樹脂エンジン部品
- ・セルロースナノファイバーへの取り組み

などを紹介しました。

「人とくるまのテクノロジー展」は、世界から最新技術・製品が集う、自動車技術者・研究者のための日本最大の自動車技術の専門展です。国内でも有数の出展規模を誇り、今年は5月24日（水）から26日（金）までの会期中、562社・団体が出展、9万人以上の来場者を集めました。



写真左：インストルメントパネル（マツダCX-9）



写真中央：電動スイッチを内蔵したインストルメントパネルの部品（コンセプトモデル）



写真右：電気自動車（EV）向け給電口（コンセプトモデル）

環境省NCV (Nano Cellulose Vehicle) プロジェクトに参画



当社は、環境省地球環境局が主導し、京都大学をはじめ20の研究機関、企業等で構成される「NCV (Nano Cellulose Vehicle) プロジェクト」に参画しています。

このプロジェクトは、セルロースナノファイバー（CNF）を複合化した樹脂材料について、材料から自動車など最終製品までの一連の流れを評価するものです。

当社は自動車樹脂部品メーカーとして、セルロース繊維と樹脂の複合材の成形や評価を担当します。

今回のプロジェクトへの参画を通じ、より軽量で高い強度、さらに環境にやさしい製品づくりに向け、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

セルロースナノファイバーとは？

植物の細胞壁から抽出した繊維を補強材として用いることで、鋼鉄の5分の1の軽さで5倍以上の強度を実現するものです。軽量で高強度であるとともに熱による変形が小さく、植物由来であることから環境負荷が小さい次世代素材として注目されています。

当社では、これまで培ってきた高い技術力、多彩な生産設備により、自動車に関わるあらゆる樹脂部品を提供しています。

今回は当社の主要製品の一つである、エンジンルーム部品のインテークマニホールドをご紹介します。

自動車のエンジンルーム部品

インテークマニホールド Intake Manifold

インテークマニホールドとは？

エンジンの燃焼に必要な空気を、各シリンダーに効率よく送り込むための吸気多岐管です。

かつては鋳鉄やアルミ合金製がほとんどでしたが、樹脂の耐熱性や耐薬品性の向上、成形・加工技術の進化等により、現在では軽量で低コストの樹脂製インテークマニホールドが主流となっています。

インテークマニホールドの管の長さや、太さ、内部容量により、エンジンの特性を最適化することができ、最近では排気ガスを再循環させて省燃費化する構造も織り込まれています。

当社は、国内で初めて大衆車向け樹脂製インテークマニホールドを開発した実績があり、世界で初めてDRI工法(※)による樹脂製インテークマニホールドの量産を開始したパイオニアです。

既存の製品はナイロン製ですが、更なる軽量化と低コスト化実現に向け、ポリプロピレン製インテークマニホールドの開発を手掛けるなど新しい試みにもチャレンジしています。

※DRI工法とは・・・「Die Rotary Injection」の略。成形時、金型を回転させて、金型内で製品の成形と溶着を行う工法



ダイキョーニシカワの樹脂製エンジンルーム部品



オイルストレーナー



ベンチレーションパイプ



シュラウドパネル



エンジンカバー

樹脂は一般的に熱や油に弱いので、エンジンルーム部品は金属製が「当たり前」で、樹脂製は適さないと考えられていました。そのような「不可能」と思われていた樹脂製エンジンルーム部品の開発に当社は意欲的に取り組み、日々研鑽を積み、挑み続けています。

当社の強みである材料ブレンド技術を駆使し、高温やオイルに耐え得る強くて最適な樹脂製部品を、次々と世に送り出してきました。シュラウドパネル、エンジンカバー、シリンダーヘッドカバー、パワステタンク等1つ1つの製品に、当社の想いと歴史が刻まれています。おかげさまで、オイルストレーナーはトップシェアを誇る製品に成長しました。

これからも飽くなき挑戦を続け、皆様のお役に立てる製品開発に取り組んでまいります。

この工場で作っています



【八本松工場概要】

所在地：広島県東広島市八本松町原175-1

従業員数：619名

主要生産品目：バンパー、インテークマニホールド、オイルストレーナー

八本松工場

八本松工場は、広島市に隣接する東広島市に位置しています。

1953年に操業を開始し、バンパー等の大物部品から、オイルストレーナー等の小物部品まで、多岐にわたる製品を扱っています。また成形、塗装、組立すべての工程を行っており、当社のマザー工場としての役割を担っています。

八本松工場は敷地が南北に長く、また大型設備の配置が複雑になっているなど、様々な難しい条件がある中で、徹底的にムダやロスの削減を行い、改善を重ねてまいりました。今後も世界トップレベルの技術の確立と付加価値を高めるモノづくり集団を目指して取り組んでまいります。



ダイキョーニシカワ 開発担当者に聞く



Q 鋳鉄やアルミ合金製だったインテークマニホールドを、なぜ樹脂製に置換することができたのですか？



A エンジンルームの温度に対応できるまでに樹脂の性能が上がったことと、溶着技術の進化により複雑な形状が実現できるようになったためです。



Q インテークマニホールドも小型化が進んでいるのですか？



A ダウンサイジングターボ・電動アシスト化などにより、エンジンは小型化が進んでいます。これに伴い、インテークマニホールドも小型で管の長さが短いものの対応が求められています。



Q インテークマニホールドの開発で苦労する点は、どんな点ですか？



A 管の長さや容積等の要求される項目すべてを、限られたスペースの中で実現させることに苦労しています。

また、軽量化と強度を両立させるとともに吸気音をおさえて静かにさせることにも苦労しています。インテークマニホールドは形状や構造が複雑なので、成形や溶着がしやすい設計に向けて、毎回新しいアイデアを織り込む必要があり、設計や生産技術が一体となって開発しています。

連結貸借対照表(要約)

(百万円)

科 目	第9期 2016年3月31日現在	第10期 2017年3月31日現在
資産の部		
流動資産	72,236	73,023
1 固定資産	51,332	47,385
有形固定資産	46,493	42,981
無形固定資産	1,157	1,033
投資その他の資産	3,680	3,369
資産合計	123,568	120,409
負債の部		
流動負債	53,442	52,266
2 固定負債	16,078	11,612
負債合計	69,521	63,879
純資産の部		
株主資本	50,687	54,067
資本金	5,426	5,426
資本剰余金	10,836	10,836
利益剰余金	34,425	42,230
自己株式	△ 0	△ 4,426
その他の包括利益累計額	1,953	1,017
その他有価証券評価差額金	403	336
為替換算調整勘定	1,673	725
退職給付に係る調整累計額	△ 124	△ 43
新株予約権	—	16
非支配株主持分	1,405	1,428
純資産合計	54,047	56,530
負債純資産合計	123,568	120,409

連結損益計算書(要約)

(百万円)

科 目	第9期 2015年4月 1日から 2016年3月31日まで	第10期 2016年4月 1日から 2017年3月31日まで
3 売上高	160,779	155,643
売上原価	135,465	133,404
売上総利益	25,314	22,238
販売費及び一般管理費	8,078	7,861
営業利益	17,236	14,376
営業外収益	1,109	594
営業外費用	1,894	1,105
経常利益	16,450	13,865
特別利益	12	3
特別損失	270	96
税金等調整前当期純利益	16,193	13,772
法人税等合計	4,671	3,687
当期純利益	11,521	10,084
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△ 54	△ 11
親会社株主に帰属する当期純利益	11,576	10,096

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(百万円)

科 目	第9期 2015年4月 1日から 2016年3月31日まで	第10期 2016年4月 1日から 2017年3月31日まで
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	29,678	17,628
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,090	△ 9,267
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,199	△ 11,196
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 629	△ 674
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	16,758	△ 3,509
現金及び現金同等物の期首残高	20,415	37,174
現金及び現金同等物の期末残高	37,174	33,664

1 固定資産

有形固定資産の減少などにより、前期に比べ3,946百万円(7.7%)減少し、47,385百万円となりました。

2 固定負債

長期借入金の減少などにより、前期に比べ4,466百万円(27.8%)減少し、11,612百万円となりました。

3 売上高

主要販売先への売上は前年並みとなりましたが、円高による邦貨換算の影響等により、前期に比べ5,136百万円(3.2%)減少の155,643百万円となりました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

17,628百万円の収入(前期は29,678百万円の収入)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益13,772百万円及び減価償却費9,170百万円の計上によるものです。

会社概要 (2017年3月31日現在)

社名	ダイキョーニシカワ株式会社
本社	広島県安芸郡坂町北新地一丁目4番31号
設立	2007年4月1日
資本金	54億2,665万3,900円
従業員数	5,001名 (連結)

会社役員 (2017年6月22日現在)

代表取締役社長	内田成明
代表取締役副社長	数上富高
取締役専務執行役員	竹岡健次
取締役専務執行役員	桧山俊夫
取締役専務執行役員	錦村元治
取締役専務執行役員	和木深水
社外取締役	出原正博
社外取締役	圓山雅俊
社外取締役	佐々木茂喜
常勤監査役	繁元則彦
社外監査役	安村和幸
社外監査役	廣田亨

グローバル事業拠点



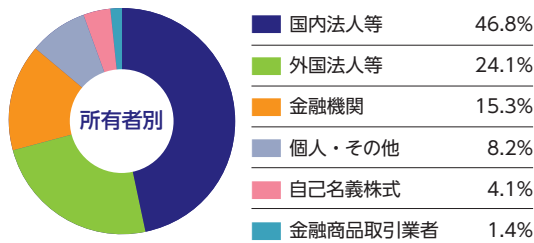
※上記の他に、連結子会社2社、持分法適用関連会社2社があります。

※大協西川開陽汽車部件(南京)有限公司は、2017年1月付で大協西川東陽汽車部件(南京)有限公司に会社名を変更しております。

株式の状況

発行可能株式総数	236,704,000株
発行済株式の総数	73,896,400株
単元株式数	100株
株主数	4,839名

株式分布状況



大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
西川ゴム工業株式会社	11,835,200	16.7
株式会社イノアックコーポレーション	3,924,600	5.5
三菱商事プラスチック株式会社	3,924,600	5.5
住友商事株式会社	3,573,680	5.0
株式会社広島銀行	3,541,800	5.0
マツダ株式会社	3,541,800	5.0
三井物産株式会社	3,222,720	4.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,057,900	2.9
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	1,909,000	2.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,784,700	2.5

※ 当社は、自己株式3,050,421株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。また、持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
剰余金の配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (平日9:00～17:00)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国支店
公告掲載方法	電子公告 http://www.daikyonishikawa.co.jp/ 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種関連資料など最新の情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。



<http://www.daikyonishikawa.co.jp/>



ダイキョーニシカワ株式会社
TEL:082-885-9979

